

メロス通信 不定期便



～市会議員と懇談しました～

お金が無くてエアコンを購入できず熱中症でお亡くなりになった山陽小野田市の手遅れ事例について、「低所得の方への熱中症対策の費用助成」をテーマに担当議員と市民懇談会を開催してもらいました。数日前の地方紙に出た熱中症で5月は県内で既に20人が救急搬送されており、野田先生が『熱中症により救急搬送され2日間の入院治療を受けた場合の医療費は1人あたり133,498円、65歳以上を対象とした調査では熱中症による入院期間の平均が27.5日だったこと』を伝える大きな反響がありました。電気代やエアコン費用を助成して熱中症を予防していくことが望ましいと伝え、生活保護の現状とそこから熱中症予防の取り組みを非課税世帯の方にもどう広げていくか、高齢者への対策など意見交換をしました。議員からは、「熱中症の危険と対策について周知が必要だと思うがどうすればいいか、孤立している高齢者を考えながらの熱中症対策と思っている」「全年齢での熱中症対策の必要を感じた」「これからは医療・福祉との連携が必要だと強く思う」などの意見が出されました。様々な会派の議員が集う中で厳しい質問があるかと緊張していましたが、議員団の真摯な対応に実りある懇談になったと思います。

心のこもった日用品・家電のご提供、お礼申し上げます！

皆さまからご提供いただいた品々が、再出発を迎える様々な方々の暮らしの場で活躍しています。

Aさんは妻と子どもの4人暮らし。老朽化したアパートでたった4畳半ほどのスペースで生活されていました。地域福祉室の支援により新居で新しい生活を始めることが出来ましたが、布団さえありません。引っ越しの際に地域福祉室に運び込まれたばかりの布団をお渡しすると、Aさん夫婦は早速ベランダに布団を干し、寝室にどう敷こうかと嬉しそうに話されていました。後日、新居を訪問すると「引っ越し初日の夜は、久しぶりに家族4人で足を伸ばして眠れました」と笑顔で話されました。

Bさんは夫から経済的虐待に苦しめられ続け、新たな人生を歩み出すために離婚して家を出る決意をしました。しかし家の中から持ち出せるものはありません。もちろん買いそろえるお金もありません。そこでBさんに布団と炊飯器をお渡しすると「ご飯をしっかり食べて体力をつけて頑張ります！」と言われ、とても喜んでくれました。

生活に苦しむ方々が布団1枚、ちょっとした一つの家電だけで生活再建できるものではありません。しかし生活困窮者の多くが「支援者が自分に真剣に向き合ってくれない孤独」を感じています。これは制度や政策の問題が大きいですが、地域福祉室から皆さまの温かい心がこもった品々をお届けすることはモノ以上の価値があるようです。心の貧困は1枚の布団で温めることができることを、支援を通して実感しています。

皆さまから提供いただいた品々は、このように生活の立て直しをする人たちに温かい大きなエールとなっています。これからもご支援を宜しくお願い致します



スマイル会館で定例相談会を行ないます

地域福祉室メロスでは、新たな取り組みとしてグループホームかいなんの地域交流スペース「スマイル会館」で相談会を開催することになりました。対象は上宇部クリニックを中心とした地域です。初回は6月14日です。毎月第2金曜日の14時30分～16時30分を予定しています。

病院に行きたいけれど行けない方や相談したいけれど相談できない方たちは、地域で人知れず不健康に苦しい生活を強いられています。病院でも相談事業所でもない場所で気軽に話すことが出来る相談会にしていきたいです。

第5回Club・Gyarossより

5つの事例より『子どもの権利と健全な育成』について話し合いました。親世代の貧困の広がりや子どもの発育に大きく影響していることを実感し、私たちにできることは何かを考えました。次回も子どもがテーマです。一つの事例を深く掘り下げ、私たちの役割を考えていきます。

